

「縁側で『こんにちは』」プロジェクト -共有・共感・共生空間の創生- ご案内とお誘い

この度、2011 年度研究科長裁量経費事業の配分を受けまして、震災からの復興支援事業を行うこととなりました。文系の強み、文学部・文学研究科の多様性を活かした活動を目指していきます。そのためには、教員の皆様のご協力とご支援が不可欠であると思われまます。お忙しいところ恐縮ですが、「できること」「できそうなこと」がございましたら、少しでもお時間をご提供いただけませんか。どうかよろしくお願ひ申し上げます。

1. 企画の概容

名称：「縁側で『こんにちは』」プロジェクト-共有・共感・共生空間の創生-

本年度実施期間：2011 年 10 月～2012 年 3 月（2013 年 3 月まで継続予定）

取組責任者：名嶋義直（日本語教育学）

2. 企画の背景

- ・震災の結果、地縁血縁関係を越えた他者同士が関係構築を強いられる現状
- ・多文化共生社会の構築というグローバルな課題の存在
- ・コミュニケーションの重要性が叫ばれる一方で、コミュニケーションの場の欠如というローカルな課題が存在

3. 課題解決の方策

- ・「共有・共感・共生するコミュニケーションの場」を提供
- ・多文化共生の実践機会を創生

4. 実施内容

- ・ 教員・留学生・日本人学生で数名のチームが
- ・ 名取市の仮設住宅を一ヶ月に1～2回程度巡回し
- ・ 「縁側」を設置。「カフェ」を併設し国内外の飲物・茶菓を無料で提供
- ・ 入居者に歓談の場と機会を提供
- ・ 必要に応じて訪問者も入居者とコミュニケーションを实践
- ・ 手芸や体操など多種多様なワークショップなども単発で開催
(特にこのあたりで、皆様からの「できること(できそうなこと)」がございましたらぜひご連絡をください。よろしくお願ひ申し上げます)
- ・ 学生は被災地への関心を継続して喚起するため、教員の指導の下で個人情報等に留意しつつ活動を自分の地域や世界に対して適切な手段(HP等)で発信

5. 期待される効果

- ・ 語り語られ、聞き聞かれというコミュニケーションの発生
- ・ 時間と空間の共有体験、それを通しての共感体験
- ・ それらの体験が互いが人として対等に「共生」していく能力を高める
- ・ 「元気」を取り戻すきっかけ
- ・ 地域と大学との連携、社会貢献
- ・ (学生に対して) 実践を伴うコミュニケーション教育

6. お問い合わせ先

名嶋義直(日本語教育学専攻分野)

電話: 022-795-5992(研究室直通)

メール: najimay@ (以下はsal~です)

*別途各研究室には既にご案内を差し上げましたが、当プロジェクトに関わる学生ボランティアも募集しております。学生へのご案内方、どうかよろしくお願ひ申し上げます。

2011年11月8日

東北大学大学院文学研究科

准教授 名嶋義直